

# 語り継ぐまちづくり

東十条三・四丁目



平成 22 年 10 月

(財) 北区まちづくり公社

協力：東十条老社会、東十条東四和会

街よ!元氣になれ

# 目次

はじめに.....	1
東十条三・四丁目の活動経過.....	2
東十条三・四丁目地区の移り変わり.....	3
まちの成り立ち.....	3
十条・地名の由来は古代条里制？.....	3
地区の中心は JR の 2 駅.....	4
東十条駅周辺のまちの成り立ち.....	5
* 王子製紙十条工場.....	6
* 環状7号線.....	6
* 北区にホンダの工場があった！.....	8
大震災.....	10
関東大震災.....	10
復興.....	11
太平洋戦争.....	12
戦災復興都市計画.....	12
北区における戦災の状況.....	12
* 市民生活の状況.....	12
* 空襲の状況.....	13
復興のあゆみ.....	13
庚申観音堂の碑.....	14
雑学日本史.....	15
坂本龍馬.....	15
まち歩きの様子.....	17
まとめ・地図製作の様子.....	18
課題解決策.....	19
『語り継ぐまちづくり』東十条三・四丁目参加者.....	21
古地図	



## はじめに

(財)北区まちづくり公社では昨年度に引き続き、高齢化社会が進む中で、北区シニアクラブ東十条三丁目老壮会、東十条四丁目東四和会の皆さんの協力をいただき『まち歩き』を実施し、ワークショップを開催し、地域で抱えている問題点や課題を抽出、解決策などを整理し、地域の歴史や文化を子ども達に語り継いで行くために『ふるさと伝承・語り継ぐまちづくり』を冊子としてとりまとめました。

あわせて『昭和の東十条の古地図』を作成しました。



# 「語り継ぐまちづくり」

## 東十条三・四丁目の活動経過

平成22年 4月 20日	シニアクラブ役員打ち合わせ 東十条老壮会（東十条三丁目） 東十条東四和会（東十条四丁目）
5月 27日	まち歩き
6月 17日	まち歩き
7月 15日	課題・問題点の整理
8月 25日	古地図づくり
10月 29日	ワークショップ最終回

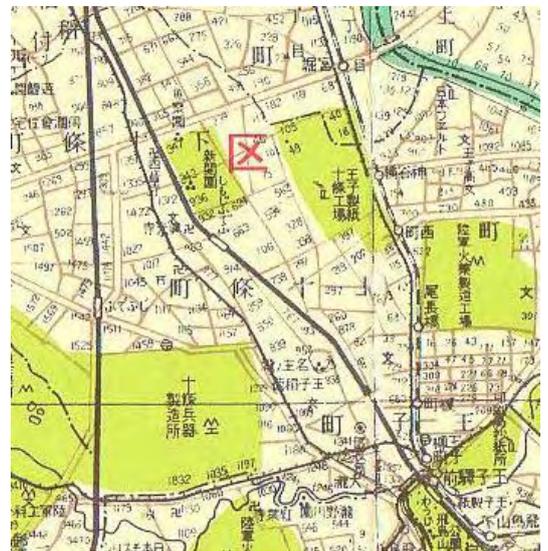


# 東十条三・四丁目地区の移り変わり

## まちの成り立ち

### 【十条・地名の由来は古代条里制?】

上十条、中十条、東十条、十条仲原、十条台の5町で構成される地域。赤羽、王子、滝野川に囲まれ、北区の中ではかなりの面積を占めている。いかにも古代条里制に由来するような地名で、実際に新北区史にはその話が採用されている。しかし、地域を訪れると近隣には条里制をうかがわせるような字名などなく、狭い道路が入り組んでおり、条里制の整然と区画整理されたイメージとはかけ離れている。地名の由来に関しては異説もあり、「新編武蔵野風土記」天保元年（1830年）には、豊島清元が熊野権現を勧請した際に、紀州の十条峠にちなんで名付けたと記されている。ただ、この熊野権現とはいったいどこか?（一般論としては王子神社）当地域に熊野神社は見あたらない。隣町の志茂の北端に熊野神社があるのだが、ここが十条という地名の発祥の地と言われてもピンとこない。いずれにしても地名自体は古くからあるようで、文安5年（1448年）の文献に見えるのが初見だそうだ。



十条地域を南北に横断しているのが岩槻街道。江戸時代に日光街道の脇街道として整備され、本郷で中山道から分岐し、埼玉県の幸手で日光街道と合流していた。諸大名は主として日光街道を往来していたが、将軍家が東照宮に詣でる際に利用する将軍家専用道的な趣だったらしく、日光御成街道と呼ばれていた。現在では北本通りの裏街道のような感じで、特に十条の街はこの日光御成街道沿いに発展していったようで、寺社仏閣が集中している。最初の宿場は約4 km先の岩淵にあったが、渡河を控えて休息を取る人も多かったのだろう。街道沿いの真光寺、西音寺などは休み処として利用されていたそうだ。明治になってからは、旧日本陸軍との関わり合いを深めていく。十条地区から王子、滝野川にかけての地域には、陸軍

関連の施設が集中していた。現在の十条駅の南には、明治38年（1905年）に兵器工場が開設され造兵廠と呼ばれていた。その後次々と工場は増設され、砲弾や火薬が製造されていた。第二次世界大戦後は米軍に接收され、日本に返還された後は自衛隊の駐屯地などになっている。レンガ造りの一部は新中央図書館の建物に残されている。



## 【地区の中心はJRの2駅】

十条地区には既存のJRの駅が二つある。埼京線の十条駅と京浜東北線の東十条駅で、東十条駅は昭和6年（1931年）に下十条駅として開業し、昭和34年（1959年）に改称された。京浜東北線の線路の東側が町名としての東十条だが、十条地区の他町に比べ低地になっている。田端駅から赤羽駅にかけて、線路の西側が断崖になっている。これが十条台地で武蔵野台地の東端にあたる。このため十条地区には馬坂、地藏坂などの急坂が多い。東十条駅北口から岩槻街道に出ようとすると、やはり階段に続いて細い急坂を登ることになる。その両脇には商店が建ち並んでおり、何となく観光地の山寺に至る参道を思わせる独特の街並みである。



東十条駅は、以前下十条電車区であった車庫に隣接している。この車庫は現在も京浜東北線の電車がデータイムなどは多数留置されていて、簡単な検査もできる。北側には車庫があり、南側は東北本線、高崎線など複数の車両



が通過していくため、駅の事務所とホームは線路の真ん中にあるような感じで、駅前からホームまで行くには通路を渡っていないと行けない。



南口は相変わらず以前の印象を残しているが、北口東側からは階段を登らないと行けなかったため、バリアフリー対策としてエレベーターとエスカレーターが平成15年に設置された。



一方、十条駅はこれより古く、明治43年（1910年）に、当時は品川・赤羽間で運行していた山手線の駅として開業した。山手線が池袋から田端方面に迂回するようになると、その支線、赤羽線所属の駅となる。さらに昭和60年（1985年）に埼京線が開通し、赤羽線は埼京線の一部となって現在に至っている。駅の構造は2面2線の相対式ホームとなっている。

## 【東十条駅周辺のまちの成り立ち】

東十条地区（東十条一・二・三・四・五・六丁目、赤羽南二丁目、王子三・四丁目約78.8ha）は、関東大震災の復興区画整理事業により昭和7年（1932年）12月、現在のまち並みがほぼ形成された。まちの復興事業の完成や、加えて昭和6年（1931年）下十条駅開通、地域東側にあった王子製紙十条工場の発展と共に北口周辺～東十条三丁目～神谷一丁目にかけて庶民的商店街は栄えてきた。



なお、王子の音無橋は復興都市計画事業として昭和6年に完成した。

## 王子製紙十条工場



王子製紙十条工場は、当初、大蔵省印刷局の抄紙工場として建設されたものであった。運搬に便利な掘り割り（甚平衛堀）に接するうえ、王子にも近く製紙工場には適した場所だった。開業は明治43年、田んぼの真ん中にぽつんとできた十条工場では当時、はがきを専門に製造していたようだ。やがてこの工場は民間に払い下げとなり、大正5年（1916年）

に旧王子製紙が買収、引き込み線（現北王子線）が敷設された。昭和8年には富士製紙と樺太工業が王子製紙に合併され、国内最大の製紙企業が誕生。いわゆる戦前の「大王子」時代を迎える。しかし、戦争により産業界は衰退。昭和20年4月13日（1945年）深夜の空襲により、旧王子製紙の本社工場（現サンスクエア）は全焼、十条工場も被害を受けた。さらに戦後、GHQの命令で旧王子製紙は三社に分割され、十条工場と王子工場の焼け跡は、三社の一つ十条製紙（今の日本製紙）が引き継ぐこととなる。分割から20余年、戦後復興と高度経済成長の下で十条工場は地域のシンボル産業として稼働。しかし、時代のすう勢や採算面で次第に工場維持が困難となり、60年以上にわたって親しまれた十条工場は昭和48年（1973年）、ついにその役目を終える。広大な工場跡地は住宅公団に引き渡され、昭和51年（1976年）に団地としての新たな歩みをスタートさせた。



## 環状7号線

東京のまち並みは、過去3度、大きな変貌を経験したといわれる。関東大震災と第二次世界大戦下の戦災という二度の大破壊と再生、そして戦後の高度経済成長期の大改造である。現在、都内唯一全線完成している環状幹線道路である環七通り建設の歴史は、この東京の変貌の歴史と重なっている。

環七が計画着工されたのは昭和2年（1927年）である。大正12年（1923年）の関東大震災



で東京の市街地の大半が消失すると、その復興事業として従来より格段に道幅が広い道路や、公園等の緑地帯を備えた近代的な街路が建設された。昭和通り（幅員43m）や靖国通り（幅員33m）など、現在の都心部の街路の原型はこのとき造られている。市街地の郊外への急速な拡大につれ、この都市計画の延長として、何本もの放射道路計画とともに環六（山手通り）、環七、環八等

の環状道路計画が生まれた。だが、実際の工事は進まず、日本は戦争に突入、環七はわずか7.2 Km開通ただけで東京は再び焼け野原化してしまった。

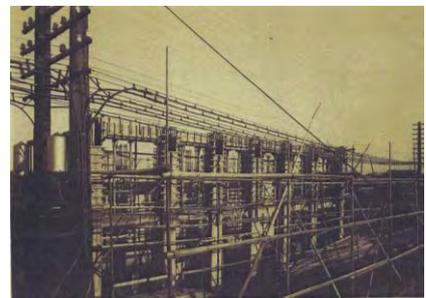
戦災復興計画として立案された新しい東京の都市計画は、大震災後の復興計画を下敷きに、さらにグレードアップした壮大なものであった。広大な緑地帯に覆われた市街地に幅員40~100mという広幅員の放射・環状線が縦横に走る道路網。だが、この一大計画も、敗戦直後の疲弊した国力では縮小につぐ縮小を重ねざるを得なかった。文京区小石川の環三通り（長さ約400m）はこの時挫折した環状3号線計画の名残である。



現在の環三通りの一部の通称名：播磨桜並木

環七は、少しずつ、しかも飛び石状に不連続に建設が続けられた。昭和34年（1959年）に、東京オリンピック開催が決定されると、それに向けて競技場や首都高速道路などの建設が開始された。オリンピック関連道路として各競技場（国立代々木競技場等）や選手村（代々木公園、八王子、相模湖、大磯、軽井沢等）を結ぶ青山通りなどが拡幅され、環七の西半分が一気に整備されたのはこの時期である。

環七はその後、昭和60年（1985年）筑波万博関連事業として整備され、大田区から江戸川区に至る全線57.2 Kmが開通した。昭和初期に計画、着工されてから完成に約半世紀以上の歳月を要したのである。



東十条地区付近の環七は震災復興区画整理事業により、昭和7年（1932年）にほぼ完成、また、省線（現東北本線）を跨ぐ平和橋は昭和10年（1935年）頃から工事に着手し昭和16年（1941年）頃完成した。東側の神谷地区は復興区画整理事業が行われなかったため、現道もなかったが昭和14年（1939年）頃から工事に着手し、昭和26年（1951年）に神谷橋と北本通り交差点部分の工事を着手し、昭和40年（1965年）完成。神谷陸橋は昭和44年（1969年）に完成した。省線西側の平和橋から姥が橋間は幅員6m程度の砂利道であった。

なお、姥が橋から国道17号線大和陸橋までの板橋区内は完成されていた。



## 北区にホンダの工場があった！



ホンダが創業を開始したのは昭和21年（1946年）のことである。静岡県浜松市の山下町に本田技術研究所を開設。内燃機関および各種工作機械の製造ならびに研究に着手した。ここは後に山下工場となる。

そして、昭和23年（1948年）に浜松野口町に野口工場を建設。同年浜松市板屋町に本田技術研究所を継承するかたちで本田技研工業を設立。昭和25年（1950年）11月には将来の飛躍を目指し、東京都中央区京橋榎町に東京営業所を開設して東京進出を果たす。同年に、以前ミシン工場だったところをホンダが買い取り東京工場を開設した。場所は北区上十条五丁目である。東京工場は車体製作と最終組み立てを行っていた。



設立当初東京工場では、ホンダドリームD型（空冷2サイクル単気筒ロータリーバルブ、排気量99cc）が製作されていたが、昭和26年（1951年）には、ホンダのスピリットである「走る実験室」として伝説となった箱根峠越えテストに挑戦。雨天の走破に成功し信頼性と耐久性を実証した、ホンダドリームE型（排気量146cc）と、自転車取り付けタイプで排気量50ccの量産車として

ホンダカブF型を製作した。できあがった車は一台一台、当時完成していない環七や荒川土手で、本田宗一郎自らテストを行い販売した。

昭和28年（1953年）には、埼玉県大和市（現在の和光市）に工場を移転、東京工場は廃止された。現在和光工場は廃止され研究所のみ残されている。埼玉に移転した後、「世界一にならなければ日本一にはなれない。」創始者である本田宗一郎の号令で、二輪車の世界で最も過激なレースであるイギリスマン島TTレースや世界GPに、国内では浅間山のレースに参戦。昭和36年（1961年）にはドイツホッケンハイムサーキットにおいて250cc級ホンダRC162で日本人ドライバーが初優勝をする。



トップ集団を形成するレッドマン107、黒鷹100、ホッキンク111、アグナー143。

昭和37年（1962年）には自動車レースの最高峰であるF1世界選手権に参戦、6月に行われたドイツGPにおいて、これまでの常識を破ったホンダ製V12気筒RA272が初優勝するのである。その後、空冷エンジンRA302を開発したが走行中に火災によりドライバーが亡くなるという事故を起こし参戦を休止。昭和50～60年代（1980年代）に入ってはシャーシー製造のマクラレン社と組みエンジンを供給（1500cc V12気筒ターボエンジン、出力約1000馬力/2万5000回転）、二名のドライバーにより、実にGP16戦中15勝をなし遂げた。この時期にロータスホンダから日本人初のフルタイムドライバーも参加した。この後、ホンダはF1で培ったテクノロジーを燃費の良い量産車に活かすため「走る実験室」の活動を休止することになる。平成10年代（2000年代）にはBAR社にエンジン供給、翌年はシャーシーからエンジンまでオールホンダとして参戦。平成20年（2008年）をもってリーマンショックに端を発した世界経済不況から、環境路線を打ち出しF1界から撤退をしたのである。



この輝かしい成績も、ホンダの夢も戦後の復興期に上十条にあった東京工場から始まったのである。

※マクラレンホンダに積まれたエンジンにつけられたキャブレターはトランペット型で、高回転、高音質の金属音でホンダミュージックと多くのファンから言われていた。

## 《スーパーカーの発案者は本田宗一郎だった?》

昭和の時代に「スーパーカーブーム」があった。

スーパーカーの元祖といえば、昭和36年メルセデスベンツが300SLを製造した。日本に2台輸入され持ち主は、力道山と石原裕次郎の二人で雑誌のカーグラフィックでもさすがに持ち主が持ち主だけに写真を撮らせてもらえず、雑誌にはカタログを掲載したと言われている。なにしろ車の値段が当時400万円、今ならば約9,000万円で高値の花であった。



昭和38年に富士サーキットで第1回日本GPが開催され、フェラーリやアストンマーチン、ポルシェといった車がサーキットに姿を現した。3年後の昭和41年にフェラーリディノ246GT（ディノとはフェラーリの会長であるエンツォ・フェラーリの子息が不慮の事故で亡くなったため子息の名前である「ディノ」を車名とした。）、また、ランボルギーニミウラP400も発売され、両車ともミッドシップエンジン（後輪の前、運転席の後ろにエンジンを積んだもの。）であった。両社にミッドシップを提案したのが本田宗一郎だった。

この後、池沢さとしが原作の漫画「サーキットの狼」で、日本ではスーパーカーブームとなった。特に、ランボルギーニカウンタックLP400やフェラーリ512、ポルシェカレラ904GTSが人気があった。

## 《本田宗一郎の名言》

『社長なんか偉くもなんでもない。課長、部長、包丁、盲腸と同じだ。要するに命令系統をはっきりさせる記号にすぎない。』

# 大震災



その日はちょうど昔から風水害が多いと言われている210日の前日であった。東京地方は午前3時頃、やや激しい風雨であった。夜が明けてみると快晴で初秋の朝日を見せていた。人々は、ホット息をついた昼頃、どこでも昼ご飯の支度をととのえ食卓についている時分、不意にどこからともなく、異様の音が起こったかと思うと、たちまち大地が波うちをはじめ、振動は次第に激しく、やがて一大振動とともに、壁が崩れ、屋根が落ち、塀が倒れ、柱が折れ、家という家はことごとく大破し、あるいは倒れ、あるいは潰れた。土煙が八方から上がったと見ると、早くもその中から紅連の舌がよろよろと上がり始めた。2度目の強震が来たときは、ほとんど屋内にいる者はなかった。逃げ遅れた者は悲鳴を上げて助けを呼ぶ様子は至る所に現出された。

写真提供：毎日新聞 民家が燃えているところ

## 【関東大震災】

大正12年（1923年）9月1日午前11時58分、相模湾北西沖80Kmを震源とするマグニチュード7、9の地震は、東京湾、相模湾沿岸一帯の地方をゆりつぶして、安政2年（1855年）10月2日の夜起こった、江戸大地震（元禄16年、安政2年）以来の惨害を加え、同時に各所に発した火のために、東京の大半、横浜、横須賀の全部は焼き払われた。沿岸海底の地形に大変化を示し、その損害程度にいたっては、実に世界有史以来と伝えられている。

なお、地震以後も気象観測を続けた東京の中央気象台は、9月1日午後9時ころから異常な高温となり、翌2日未明には最高気温46.4度を観測している。このころ、気象台には大規模な火災が次第に迫り、ついには気象台の本館にも引火して焼失していた。気象記録としては無効とされ抹消されているものの、火災の激しさを示すエピソードである。

### 一被害一

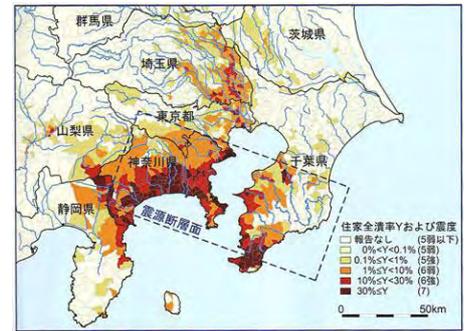
死者・行方不明者 … 14万2800人  
負傷者 …………… 10万3733人  
避難人数 …………… 190万人以上  
住宅全壊 …………… 12万8266戸  
住宅半焼 …………… 12万6233戸  
住宅焼失 …………… 44万7128戸

### 北区の被害状況 大正14年

町	人口	全壊	半壊
岩淵町	21,937人	293戸	587戸
王子町	60,086人	1,254戸	1,129戸
滝野川町	82,285人	133戸	104戸

## 【復興】

震災は旧東京市に大きな損害を与え、その被害の甚大な事から一時は遷都も検討されたが、政府としては復興気運が衰える事を恐れて『帝都復興詔書』を出すことで遷都を公式に否定し「帝都復興審議会」を創設することでようやく大きな復興計画が動きだした。これを機に江戸時代以来の東京の街の大改革を行い、道路拡幅や区画整理などインフラ整備も大きく進んだ。



この頃日本で初めてラジオ放送が始まったが、その一方で、第一次世界大戦終結後の不況下にあった日本経済にとっては、震災手形問題（震災のため支払いができなくなった手形）や復興資材の輸入超過問題などが生じた結果、経済の閉塞感がいっそう深刻化して後の昭和恐慌の遠因となる。震災復興事業として作られた代表的な建築物には、同潤会アパート、聖橋、復興小学校、復興公園、震災復興橋（隅田川）、九段下ビルなどがある。



震災の約4週間後、帝都復興院が設置され、総裁の後藤新平により帝都復興計画が提案された。それは被災地をすべていったん国が買い取る提案や、自動車時代を見越した100m道路の建設、ライフラインの共同溝化など、現在から見ても理想的な近代都市計画であったが、当時の経済状況や当時の政党間の対立などにより予算は縮小され、当初計画は実現できなかった。これが失策であったことは東京大空襲時の火災の拡がり方や、戦後の自動車社会になって思い知らされることとなる。

### 後藤 新平 (1857~1929)



東京は水の都である。永代橋をはじめ隅田川に架かる橋の多くは関東大震災による被災後、新しい東京のシンボルとして架け替えられた。これらの橋には焼け野原となった東京を一国の首都に相応しい街に作り変えるという夢が託されていた。その夢を推し進めたのが内務大臣後藤新平である。医師として出奔した後藤は、若い頃より好奇心旺盛、一つのことにのめり込むと寝食を忘れて取り組み、常に一歩先を行く男だった。1週間着物も袴も脱がずに眠くなれば机にもたれたまま寝て目覚めるとそのまま勉強を続けた事もあったという。「直絶物欲期成業」（一切の物欲を絶って成業を期す）、若かりし後藤新平が詠んだ詩である。

明治25年（1892年）若くして内務省衛生局長に就任、日清戦争帰還兵23万人の検疫事業を成功させ、後藤の名は一気に知れ渡る。その後、台湾総督府のナンバー2、満州鉄道初代総裁と歴任した、大正9年（1920年）、汚職事件に揺れていた東京市の市長に就任する。政党に属さず戦争とは無縁の後藤に伏魔殿と呼ばれていた東京市政再建が託されたのだ。それだけでない。欧米の首都に負けられないような近代都市に東京を改造する。東京市長後藤はゴールを定めたのである。

# 太平洋戦争

## 【戦災復興都市計画】

関東大震災の復興から20年も経ないうちに、今度は日本全国の主要都市が太平洋戦争の空襲により焦土と化した。空襲被害は215都市、面積64、500haに及び、主要都市は壊滅的な打撃を受けた。終戦の直前、内務省国土局は局内のスタッフに対して戦災復興計画の立案を命じた。内務省は終戦とともに戦災地復興計画基本方針を主要都府県に内示した。疎開跡地を公共用地として確保するための都市計画決定を指示し、戦災復興事業に影響しないように建築抑制を行うこととした。



## 【北区における戦災の状況】

北区は、明治20年（1887年）年の工兵隊（現星美学園）赤羽移転以降、陸軍被服倉庫の建設（後に、本廠（現UR団地）機能が転入）、板橋火薬製造所王子工場（現駿台学園・現飛鳥高校）の設置など、軍の兵舎や倉庫、工場など次々と転入・拡張され、こうした軍関連施設は、広大な面積を占めるとともに、昭和5年（1930年代）には重化学工業中心の工業地域として発展してい

た。このように、多くの軍事施設や軍需工場が存在していた北区は「軍都」とも称されており、米軍の無差別都市爆撃の猛威に見舞われることとなる。東京への最初の空襲は、昭和17年（1942年）4月、小規模なものであったが被害もあった。東京への本格的な空襲は、サイパン（アメリカ自治領サイパン島）陥落後の昭和19年（1944年）11月から始まった。



## ～市民生活の状況～

昭和12年（1937年）に入ると、日常生活のなかにも戦争の影が徐々に忍び寄ってきた。日中戦争勃発以降は物資の不足に始まり、物資の統制が強められ、日常生活のすみずみまで、戦争が影を落とし始めた。戦況の推移に伴い、昭和19年（1944年）1月から強制疎開が開始され、8月には学童疎開が開始された。



防火演習（写真提供：十条仲原1丁目 山野井静代さん）  
<防火演習>  
<写真提供：山野井静代氏>

## ～空襲の状況～

北区は昭和20年（1945年）2月、大規模な空襲を受け、最初の死者を出した。最大の被害を受けたのは、4月13日から14日未明にかけての空襲で、200人以上が死亡した。これを含め、死者を出すほどの空襲を7回受け、500人以上の死者を出した。北区には、赤羽、志茂、十条にかけて軍需工場や軍事施設があったが、当初は空爆の対象にされずにすんだ。北区に対する最初の大規模な空襲は、昭和20年（1945年）2月19日午後2時40分からのもので、王子区豊島地区にかなりの被害を受けた。「新修北区史」は全壊60戸、半壊66戸、消失戸数99戸、死者29人、罹災者は1、128戸としている。さらに2月25日午後2時すぎにも空襲を受け、滝野川区で死者1人を出した。3月4日の空襲でも、滝野川区で死者14人の被害を受けた。3月10日の東京大空襲でも、余波を受け、30人が罹災し、14戸が消失したほか、荒川区からの罹災者を寺などで保護した。

4月12日にも空襲があったが、翌13日夜から14日未明にかけての空襲は、北区最大規模のもので、王子・滝野川両区の広い範囲にわたって甚大な被害がでた。200人以上の死者、800人以上の負傷者を出した。王子区では、区役所や陸軍兵器補給廠等の官公署、王子製紙や日本フェルト等民間工場が焼失した。滝野川区では、低地部で大きな被害を受けた。



空爆するB-29



## 【復興のあゆみ】

戦争が終わり、他区から北区へ移ってきた人々、地方へ疎開していた人々や戦地から復員してきた人々が戻ってきた。

そして、一般住宅の建設、工場の社宅などが建ち始めると同時に、軍用地の払い下げにより学校施設や公団団地が建設されていった。

東十条地区でも住宅や社宅などが建ちはじめ、商店街の復興として昭和24年には駅北口の東十条商店街振興組合が協同組合を設立、39年には組合員158人を以て振興組合に改組、昭和27年には東十条銀座商店街協同組合が結成された。昭和26年には王子保健所通り商店街、東十条南口通り商店会が設立され、映画館ができるなど庶民の街として賑わいを取り戻し、現在にいたっている。

## 庚申観音堂の碑

《王子5丁目20番3号》

神谷橋庚申通り商店街入り口の祠の中にある。板碑型の塔で寛文5年(1,665年)武州豊島郡馬場村の講中によって造立されたとされるもので、この地に住んでいた有徳の尼を弔うために造立されたとの伝説がある。碑には次のように書かれている。

抑(そもそも)この古蹟は人皇第87代四条帝(全体の文から推測すると江戸時代と思われ、寛永年間であれば後水尾、明正、後光明天皇の代であり、四条帝は平安時代の天皇)の寛永年間俗稻武州豊島郡馬場村と言われた当地二年齒将2〜30路許りの女人修行者あの名利その他諸々欲求の〇のささやかなる〇〇に・・・

衆生済度(しょうじゅうさいと)の大祈願を旨とし道心いとも堅固に行いすましつつありたる時將に政權徳川氏の手に落ち天下平靜に来したるとはいえ今だ戦乱の殺伐なる気風多発を〇し士農といはず工商に至るまで上下等しく心雄ますます鬭争殺戮強盜等その他あらゆる不同不倫の行いに公儀の権力をもってして尚且つ制するによしなかりけるを庵主はいたくも之に愁いひ〇〇て

この哀れむべき衆生を罪のけがれより救い善道の導かんとてあらゆる困苦艱難を昌不屈撓(ふとう)の道心をもってあるいは大雨沛然(はいぜん)たる日または降雪〇たる夜は尚ほ一枚墨染の粗〇〇衣に寒氣と戦い村々を巡り又は路の傍らに立ちて佛道を説き勸善懲惡の範を示しあるときは己のためにそえたる一椀の食を飢えたる人を見て之を与えあるときは己の衣を脱して凍えたる人に恵む等の徳行の実跡(じっせん)少なからず斯してその大祈願に向かって努むること実に四十有余年健康頓(とみ)に衰退し炎ゆるがごとき信念を胸に持ちつつ老衰かつに外出もなす能(え)はさるに至りやむなくただ一人庵室の裡(うち)に引きこもり日夜看経(かんきん)と祈願にのみ勤めつつある中盡命数(ちゅうじんめいすう)の期に達し明皎(めいこう)いたる月影大武蔵野の西辺にかくれんとする晩秋の暁き傘(しゅつ)としてに入寂(にゅうじゃ)やられたる〇べき・・・く

主なき裡庵の何処よりもなく数旬の間れ敲(たた)くとなく韶(おと)たたる鐘の音続きては絶え絶えては続き恰(あたかも)あたたかき庵主生前日常些々異(ささい)なたるにと〇〇行人皆さしく〇〇にして〇然として恐れし又暗然として亡き庵主の徳行を想い出で眼のあたり奇瑞と共に隨喜の涙にかくされたりとのこなり

庵主の訃一度傳るや当馬場村は更なり所の遠近老若男女〇に〇らぶ一斎に皆嘆き悲しみ且つ之を惜しみ之が徳行を永久に傳へ残さんがため相計りて庵の傍らに一椀を建立し懇ろ(ねんごろ)なる供養をなしたるとなし兩末星霜(もろみせいそう)を閲すること実に二百五十有余年

庵は朽ち果てて残影をも止めず碑は風雨に晒され周囲を蔽う樹木は鬱蒼として足をも入る能(え)ず時代の推移は人心をしてこの庵主の徳行を忘れ〇に或いは此の古蹟に対し誹謗又は悪戯等をなす者あり斯かる時にはその都度靈顯あらたなる奇瑞を表じてその人を戒しむるこの古蹟に対する奇瑞は実に枚擧に遑あらず然るにこの由緒ある古蹟に見る影もなく荒廃し祭司供養を怠ること何歳なるや計り知らず慈に於力之を憂うもの相集ひ更に今新たに碑及び一字を建立し兩後毎年九月八日をして縁日となし亡き庵主追善供養〇〇み且つは賛同者各位と俱に守り本尊ともあがめたり茲に発企の擧に出たるも微弱なる有志一同の力にては〇〇貫徹を期し難きため緒彦(しょげん)の御同情にす示りて御賛同を賜りたり右該古蹟の由来を略述し高覽にしたるものなり。

昭和五年六月八日 発願者 合掌敬白



昭和5年の流行歌 ……「すみれの花咲く頃」

言葉 ……「男子の本懐、ジャズ、アチャラカ、エログロナンセンス、何が彼女をそうさせたか等」  
モノ・人 ……「流線型、ルンペン、銀ブラ、煙突男」

## 坂本龍馬



高知県にはもともと大小の戦国大名がたくさんいた。徳川家康の時代には山内一豊が土佐藩主となり、以後幕末まで山内家は続いた。土佐藩の侍は上士と下士の身分があり、下士は郷士と呼ばれていた。郷士とは一応武士の身分だが、その実体は百姓である。坂本龍馬の実家（坂本家は質屋、酒造業、呉服商を営む才谷屋の分家）も、郷士であった。武士なのに百姓、こうした身分意識が龍馬に強い反発心を植えつけたのではなからうか。

しかし、龍馬は精神主義に傾いていた土佐藩の志士の中では、めずらしく唯物論者で、商売にも天性の才能のようなものを持っていた。もし、経済人として活動していたら、明治を代表する三菱の岩崎弥太郎や、渋沢栄一をものぐ成功を収めていただろうと思われる。三井、三菱に匹敵する坂本財閥ができていたかも知れない。それほど活動的で機転のきく人物だったため、龍馬にはさまざまなエピソードがある。

しかし、それらのほとんどは後世のつくり話で、すべてを信じることはできない。龍馬には二人の妻がいた。佐那とお龍である。二人の墓碑には『坂本龍馬室』『贈正四位坂本龍馬之妻龍子之墓』と刻まれている。

佐那は、北辰一刀流の千葉定吉の娘。龍馬は江戸遊学の際千葉道場に入門。やがて二人は恋に落ちる。この当時姉乙女に宛てた手紙によれば

**『此はひまはずまず人にいわれんぞよ。すこしわけがある。長刀は順付八千葉先生より越前公へアあがり候入江、御申付にて書きたるなり此人ハおさなどいりなり。本ハ乙女といひ心なり。今、年二十六歳なり候。馬によくのり紐もよほど手強く、長刀もてき力はなみなみの男子より強く、先たちどへバうちむかしをり御ざんといり女の、力料斗も御座候べし。かほかたち平井よりよし。十三歳のこどもくひき、十四歳の時皆傳いたし申候ふし。そして、えもかき申候。心ばへ大丈夫にて男子などをよばず。夫二のたりてしづかなるひとなり。ものかずいはず、まあまあ今の平井平井。』**

佐那は、元は偶然ながら姉乙女と同名であり、彼女は乗馬・剣術・長刀もできて、昔坂本家に奉公していた力持ちのぎんを思い浮かべる。と紹介。初恋の女性と言われる平井加尾を引き合いに出し、容姿が良いのみか、体力・心映え・教養まで秀出している様に褒めている。龍馬は当時の心境を姉に正直に打ち明けている手紙である。入門から5年後、龍馬は北辰一刀流の免許皆伝。この時、定吉は龍馬と佐那との結婚を許す。しかし、当時は動乱の世。夫婦になるのは世の中が落ち着いてからということになり、婚約の証として定吉は龍馬に短刀を、龍馬からは紋付の裕衣が贈られた。この後、龍馬は千葉道場に戻ることはなかった。（この間、龍馬は龍と結婚）婚約から9年後龍馬の訃報に接する。佐那は59歳で世界する。佐那の墓は甲府市清運寺にある。

坂本龍馬は、1841年、医師榑崎将作の長女として京都に生まれる。1866年（慶応2年）寺田屋襲撃の際に龍馬に急を知らせる。その後結婚（媒酌人は中岡慎太郎）。小松帯刀からの勧めで薩摩藩に守られながら、二人で行った鹿児島への旅（湯治）が、日本で最初の新婚旅行と言われている。（小松帯刀は非常に愛妻家で、龍馬が新婚旅行へ行く10年前の1856年（安政3年5月）に霧島栄之温泉に新婚旅行に行っている。）1867年、龍馬の死後は一時坂本家に世話になっていたが、嫁として認められず離別を申し渡された。土佐を出る際は、龍馬からの書簡を燃やし処分し京に戻っている。後に妹君枝のいる横須賀へ行ったお龍は、神奈川宿で西村松兵衛と知り合い再婚。この頃お龍は「ツル」と名乗っていた。龍馬の妻だったことを内緒にしておくよう妹夫婦から口止めされていたという。1906年横須賀で死亡。享年66歳。龍馬亡き後40年後であった。お龍が永眠してから8年後の大正3年に妹夫婦らの合力で墓が建てられた。建立者の名は中沢光枝（君枝）となっている。墓は神奈川県横須賀市の信楽寺にある。

## お龍の写真、科学警察研究所で鑑定

（2008年5月15日記者発表）

坂本龍馬の妻、お龍なのか、専門家らの間で議論のある若い女性の写真が2枚ある。明治5、6年頃撮影され、格子柄の着物を着た若い女性の立ち姿と、椅子に腰掛けた姿を写したものである。写真には「お竜」「たつ」と名前が添えられており、30代のお龍と推測される。この2枚の写真とお龍と確定されている晩年の写真を使用し、警察庁の科学警察研究所が鑑定を行い、同一人物の可能性があると結論を下し、結果を受け記者発表を行った。

### 写真鑑定 ～坂本龍馬の妻、お龍～



【参考文献】ウィキペディア、ホンダ50年史

【写真提供】東京都土木技術・人材育成センター

# ~まち歩きの様子~



# ～まとめ・地図製作の様子～



# 課題解決策

## 【問題点や課題1】

○駅周辺や商店街は放置自転車も多く商品のはみ出しもあり、歩きづらい。



### 解決策

通勤者よりも店の客の方が多いと思われるため、商店街と警察等と連携しパトロールを強化し、歩行者の事故を未然に防ぐ。

## 【問題点や課題2】

○大型の消防車が入れない場所がある。

### 解決策

消防署と町会で地域の点検を行い対策を考える。



## 【問題点や課題3】

○空き家が増えている。

### 解決策

町会、民生委員などをお願いし現地調査を行ってもらい対策を考えていく。

## 【問題点や課題4】

○商店街はLEDなどを取り付けたが、景観上から電線類の地中化が望ましい。

### 解決策

商店街を通して区や東京都へ要望をするよう話し合いを進める。



## 【問題点や課題5】

○幅員の広い道路の車道部分に自転車用の白線を引いてもらいたい。

### 解決策

警察署や区と相談していく。

**【問題点や課題6】**

○広い歩道には歩行者と自転車専用のマーキングをして欲しい。

**解決策**

警察署や区にお願いしていく。



**【問題点や課題7】**

○東十条小学校裏側の横断歩道の信号サイクルが短く、老人には渡りきれない。

**解決策**

警察署にお願いしていく。

**【問題点や課題8】**

○駅南口へのアクセス（現在は階段だがEVの設置など）を考えて欲しい。

**解決策**

区やJR東日本へ要望していく。

**【問題点や課題9】**

○東十条歴史館の設置ができないか。

**解決策**

今後、地域の検討事項とする。

**【問題点や課題10】**

○駅周辺は外国人の店も多く、生ゴミの放置が絶えない。

**解決策**

まちが一体となり町会を先頭に解決策を検討するよう、町会へ申し入れを行う。

## 参加者名簿

### \* 東十条老壮会 \*

中 村 瑞

色 川 勇

関 十四三

峰 岸 宮夫

青 木 富佐枝

関 ふさ子

南 条 和江

谷古宇 敏子

中 島 秀雄

### \* 東十条東四和会 \*

藤澤 進

藤澤 一美

飯塚 豊

大沼 光男

菊地 貞男

太田 雅子

井藤 茂

小山 隆一郎



**(財) 北区まちづくり公社**

〒114-0001

東京都北区東十条 3-2-3-101

TEL 03-5959-2363

FAX 03-5959-2365

E-mail [info@matikita.com](mailto:info@matikita.com)

# 語り継ぐまちづくり (昭和の東十条三・四丁目)

